

献辞

人文社会科学研究科准教授 藤井 まなみ

広田幸紀先生は、1981年3月に東京大学経済学部を卒業後、同年4月より海外経済協力基金に入られた。1998年から、海外経済協力基金が国際協力銀行となった後も引き続き3年に亘ってベトナムに駐在し、現地の発展に尽くされたことは同国政府により表彰を受けたことにより明らかに示されている。その後はインドネシアでの駐在も経験され、同国との間でも日本の架け橋となる役割を果たされている。2008年の国際協力銀行の再編に際しては国際協力機構（JICA）に入られた。当時の理事長は緒方貞子氏であり、一緒に仕事をする中で大きな影響を受けたとのことである。

2009年より、JICA在職の傍ら、埼玉大学大学院経済科学研究科で研究活動を始められ、2011年3月には経済学修士、2014年3月には『東南アジア新興国の変容と我が国ODAの変遷に関する考察』（学位論文）により経済学博士の学位を取得された。後期博士課程在籍中の2013年から本学経済学部で講師、2014年からは経済科学研究科で客員教授を務められる他、政府、団体、国際協力機構などが主催する研修等での講師も多数務められた。

2018年4月より、埼玉大学大学院人文社会科学研究科に教授として着任し、同時に国際協力機構緒方貞子平和開発研究所客員研究員となられた。社会人としての専門的経験に学術的な分析を加えて新たな知見を得ることで学問的にも貢献するという本学大学院のコンセプトを正に体现されたと言えよう。2024年3月を以て埼玉大学における定年を迎えられたが、後者としての研究活動はなお続けられる。

本学の学部においては、英語で授業が行われる「Introduction to Public Policies」及び「Advanced Theory of Public Policies」並びに英語の演習を担当され、留学生や留学する学生の指導にも尽力された。大学院人文社会科学研究科では「Public Policies in Japan and Asia」及び「国際公共政策特論」を担当され、また多くの学生を指導された。「Advanced Theory of Public Policies」は融合教育科目「Public Policies and SDGs」として理工学研究科博士前期課程にも開放されるなど、埼玉大学の文理融合教育の一翼を担われた。2020年度から2年に亘り副学部長も務められたが、その任期はコロナ禍の勃発期に当たり、困難を極めた大学の教育環境の維持のために学部長を支えて大変なご苦労をなされたことに深く感謝したい。更に2022年度は法と公共政策メジャーのメジャー長も務められた。実務に長けた非常に頼もしいメジャー長であらせられた。

研究活動においては、長きに亘る国際協力機構での実務経験を基に、開発協力のあり方、更にはインフラ投資のあり方、質の高い成長とは何かなどのテーマを研究されてきた。JICA 緒方研究所の客員研究員という立場もあり、研究成果の発表は緒方研究所において多くなされている。定年によって本学は去られるが、引き続き同研究所での研究は継続されるので、今後も大きな成果が期待される。

着任されてわずか2年でコロナ禍に突入したこともあって、親しくお話しさせていただく機会は決して多くなかったけれども、物腰は柔らかなながら芯の通ったお人柄、多彩なご経験から豊かな会話が広がる一齣が思い浮かぶ。

埼玉大学経済学会は、先生のご健康と今後における益々のご活躍を祈念する次第である。